

SecureDoc Enterprise Server

リリースノート

製品バージョン: 9.1 SR1

2024年7月

(Rev 1.0)

目次

本リリースバージョンについて	2
システム要件	3
注意事項	3
KnownConfigs.XML ファイルについて	4
プログラム(プロダクト)名、用語について	5
新機能および機能強化.....	6
SES または SESWeb	6
SDLinux.....	6
改善された問題.....	7
SecureDoc Enterprise Server	7
SES Web.....	7
SecureDoc for Windows	8
SDFV2.....	9
SDLinux.....	9
IdP	10
MagicEndpoint	10
改善した問題(特定のデバイスに関連)	11
制限事項	12
SecureDoc Enterprise for Windows	12
サポートが必要なお客様	14
連絡先	14

本リリースバージョンについて

このドキュメントには、本バージョンに関する重要な情報が含まれており、全体を確認されることを強くお勧めします。最新バージョンでは、過去の不具合の修正及び新機能の追加など、製品が強化されています。改善された機能、安定性のための修正プログラム、セキュリティ強化のために、最新バージョンをインストールして利用されることを強くお勧めします。

バージョン	リリース日	EOL (End of Life)	ビルド情報
9.1 SR1	2024年7月26日	2027年7月25日	Build# 9.1.100.267

旧バージョンについて

バージョン	リリース日	EOL (End of Life)	ビルド情報
9.1 HF3	2024年2月16日	2026年11月10日	Build# 9.1.003.1365
9.1 HF2	2023年12月14日	2026年11月10日	Build# 9.1.002.1354
9.1 HF1	2023年11月23日	2026年11月10日	Build# 9.1.000.1352
9.1	2023年11月11日	2026年11月10日	Build# 9.1.000.1349
9.0 SR4 HF1	2023年6月27日	2026年5月7日	Build# 9.0.401.80
9.0 SR4	2023年5月9日	2026年5月7日	Build# 9.0.400.60 Build# 9.0003.103 (macOS)
9.0 SR3	2023年3月2日	2026年3月1日	Build# 9.0.300.118 Build# 9.0003.103 (macOS)
9.0 SR2	2022年12月9日	2025年12月8日	Build# 9.0.200.207 Build# 9.0002.198 (macOS)
9.0 HF1	2022年9月7日	2025年3月30日	Build# 9.0.001.1053 (Windows クライアントのみ)
9.0 SR1	2022年7月21日	2025年7月20日	Build# 9.0.100.149 Build# 9.0001.73 (macOS)
9.0	2022年3月31日	2025年3月30日	Build# 9.0.000.1047 Build# 9.000.1030 (macOS)

注 Hotfix の EOL は、そのベースとなるバージョンまたはサービスリリースと同じです。

注 EOL を迎えたバージョンはテクニカルサポート終了となります。

※ 旧バージョンのリリースノートは、以下のサイトでご確認ください。

<https://www.winmagic.com/jp/support/jp-release-notes>

システム要件

SecureDoc Enterprise Server 及び SecureDoc クライアントのシステム要件:

<https://winmagic.com/ja/data-security-support-jp/system-requirements/>

デバイスの互換性:

<https://winmagic.com/en/data-security-support/device-compatibility/>

注意事項

SecureDoc Enterprise Server

- ・ SES の DB 作成に必要な SQL のインストールでは、「機能の選択」で、「検索のためのフルテキスト抽出とセマンティック抽出」をインストールしておく必要があります。
フルテキスト検索については、マイクロソフトのサイトで、ご確認ください。
- ・ SES コンソールの機能を適切に使用するためには、SES コンソールが稼働しているサーバーや管理用デスクトップマシンなどにおいて、少なくともローカルの管理者権限を持っている必要があります。
Active Directory の OU をインポートする場合、ドメインにログインするアカウントは管理者権限が必要です。
- ・ Azure Active Directory (Azure AD) の使用を希望するお客様は、v9.0 以降の SES が必要です。
旧バージョンの SES では Azure AD はサポートされません。
旧バージョンの SecureDoc クライアントのデバイスを使用されている場合、Azure AD に参加させる前に、v9.0 以降のクライアントにアップグレードする必要があります。

SecureDoc Enterprise for Windows

- ・ v9.1以降、**32bit OS** はサポートされません。**Legacy BIOS**モードはサポートされません。
- ・ MagicEndpoint を利用する場合、MagicEndpoint をインストールする前に、SecureDoc クライアントソフトウェアをインストールし、デバイスを SecureDoc Enterprise Server (SES) に登録する必要があります。
- ・ MagicEndpoint を利用するデバイスでは **TPM 2.0** が必要です。
- ・ キーファイルを TPM 保護する場合、**TPM 2.0** が必要です。TPM 1.2 及びそれ以前のバージョンはサポートされません。

Bluetooth (Bluetooth Low Energy) 接続のスマートフォン (モバイルトークンベース) をプリブート認証で利用したいお客様へ

- ・ Windows 10 または Windows 11 のみのサポートです。
- ・ プリブート認証プログラムは **PBLU** を選択してください。PBU では利用できません。
- ・ コンピュータのハードウェア構成 (UEFI 設定) で Bluetooth を有効にしてください。

SecureDoc Enterprise for FileVault2

- ・ macOS Mojave、Catalina はサポートしていません。

その他

- ・ **SecueDoc Essential for Windows** は、旧バージョンの v9.0 SR3 より廃止されています。

KnownConfigs.XML ファイルについて

Windows デバイスへのSecureDoc のインストールで、個別の設定が必要なデバイスについて情報が得られると、ウィンマジックは、そのデバイスに必要な設定内容をKnownConfigs.XML ファイルに追記します。

通常、SES で作成したWindows デバイス向けSecureDoc クライアントのインストレーションパッケージには、KnownConfigs.XML が含まれています。クライアントへのインストール時にインストーラーがデバイスを検知し、KnownConfigs.XML 内にそのデバイスを見つけた場合、記述されている設定内容に従ったインストールを自動でおこないます。

KnownConfigs.XML によって、特定のデバイスにおける既知情報の知識を必要とせず、インストール時における問題を回避することができます。

※ 最新のKnownConfigs.XML ファイルについては、製品をご購入いただきました販売代理店へお問合せください。

KnownConfigs.XML ファイルの変更方法：

1. Windows Explorer から c:\Program Files(x86)\WinMagic\SDDDB-NT に移動します。
2. 次に、*.xml のように XML ファイルを検索します。
3. 検索結果リストを名前別にソートします。
4. KnownConfigs.XML ファイルが見つかった各ディレクトリで、最新の KnownConfigs.XML と置き換えます。

注 KnownConfigs.XML ファイルは、ウィンマジックのみがその開発および機能強化する権利を保持しています。お客様による KnownConfigs.XML ファイルの変更に起因するサポートを要求される場合、ウィンマジック独自の裁量で追加のサポート費用を請求することがあります。

ウィンマジックは、KnownConfigs.XML を拡張および向上する方法についてのお客様からのアイデアや提案を歓迎していますが、ウィンマジックは、多くのお客様にとって利益になると考えられる KnownConfigs.XML に対する変更、テスト、承認、および公表する唯一の権利を保持します。

プログラム(プロダクト)名、用語について

プログラム名

- SES** ... SecureDoc Enterprise Server の略称、SecureDoc クライアントを管理します。
SESWeb ... SecureDoc Enterprise Server Web コンソール(SDWeb と記載している場合があります)
SDConnex ... クライアントとの通信をおこなう通信プログラム

機能名

- PBA** (Pre-boot Authentication) ... プリブート認証 (OS 起動前の認証)
RME (Removable Media Encryption) ... リムーバブルメディア暗号
RMCE (Removable Media Container Encryption) ... リムーバブルメディア コンテナ暗号
SFE (SecureDoc File Encryption) ... SecureDoc ファイル暗号
FFE (File Folder Encryption) ... ファイル フォルダー暗号
DAC (Disk Access Control) ... ディスクアクセス コントロール
Port Control ... ポート コントロール

Windows デバイスのプリブート認証(PBA)プログラムについて

- PBL** (Pre-boot for Legacy) ... Legacy デバイス向け、PBA プログラム
PBU (Pre-boot for UEFI) ... UEFI デバイス向け、デフォルトの PBA プログラム
PBLU (Pre-boot for Linux UEFI) ... UEFI デバイス向け、Linux ベースの PBA プログラム

Windows サインインの認証方法について

- SDCP** (SecureDoc Credential Provider) ... サインインに SecureDoc Credential Provider を使用

プリブートネットワーク認証について

- PBN** (Pre Boot Network) ... プリブート認証で、ネットワークを利用すること
PBNA (Pre Boot Network Authentication) ... プリブート時に、SDConnex と接続しネットワーク認証する
PBConnex ... SDConnex を使用して、ネットワーク認証をおこなう機能

BitLocker 管理について

- SDBM** (SecureDoc for Bitlocker Managment) ... BitLocker の暗号化・管理を SES でサポートするプログラム
SDBL (SecureDoc for BitLocker) ... BitLocker 標準機能のプリブートを使用し、SES で管理する
SDOT BL (SecureDoc on top for BitLocker) ... BitLocker 向け SecureDoc のプリブート認証プログラム

File Vault2 管理について

- SDFV2** (SecureDoc for FileVault2) ... FileVault2 の暗号化・管理を SES でサポートするプログラム

Linux 管理について

- SDLinux** (SecureDoc for Linux) ... Linux の暗号化・管理を SES でサポートするプログラム

その他

- SDOSA** (SecureDoc for OSA) ... OSA (Operating System Agnostic)
 TCG Opal ディスク用のプリブートプログラム
 オペレーティングシステムを選びません。
MagicEndpoint ... FIDO2 に対応した認証アプリケーション

※以降、SecureDoc を【SD】、MagicEndpoint を【ME】と表記している場合があります。

新機能および機能強化

SES または SESWeb

リファレンス	説明
SD-47129	<p>SCIMSync - SCIM 2.0 プロトコルに基づくディレクトリ同期サービス</p> <p>SCIM は、情報の共有方法を標準化することで、クラウド アプリケーションでのユーザー ID の管理を簡素化します。</p> <p>これにより、ユーザー データの追加と維持に伴う時間とエラーが削減され、さまざまなプラットフォーム間で安全かつ組織化された可用性が確保されます。</p> <p>SCIMSync は、クライアントとサーバー間のユーザーとグループのデータを管理します。クライアントがリクエストを送信し、サーバーが応答します。クライアントは、同期の頻度を制御します。</p> <p>SES は、ユーザーとグループの追加、削除、および一覧表示を処理するサーバーとして機能します。SCIM は、ユーザーのログインではなく、ユーザーの同期に重点を置いています。</p>

SDLinux

リファレンス	説明
SD-46905	<p>マシン証明書を使用する新機能</p> <p>プリブート認証で、WiFi に接続するためのマシン証明書をサポートできるようになりました。</p>

改善された問題

SecureDoc Enterprise Server

リファレンス	説明
SD-46956	<p>BitLocker デバイスに Crypto Erase コマンドを実行できない</p> <p>SES v9.0 では、BitLocker で暗号化されたデバイスへ Crypto Erase コマンドを使用できないように仕様変更していました。これは、SecureDoc で暗号化した場合と異なり、Crypto Erase コマンドで鍵を消去した BitLocker は回復できないためです。 しかし、旧バージョンを使用していたお客様の声により、本機能を有効にするように変更しました。</p> <p>注 BitLocker暗号化デバイスで、本コマンドを実行した場合、回復することはできません。</p>

SESWeb

リファレンス	説明
SD-46976	<p>CSV のファイルアクセス時にセキュリティアラートが表示される (ID: 127904)</p> <p>ルート管理者としてログインして、ユーザーリストを CSV ファイルにエクスポートし、Excel 2016 でファイルを開くと、「Microsoft Excel はこれを潜在的なセキュリティ上の懸念事項として認識しました」と表示されます。 (Excel2019、Office365 では警告メッセージなしで、CSV ファイルを開くことができます。) CSV ファイルにエクスポートされたユーザー説明内のものが、Microsoft Excel2016 によってセキュリティ警告としてフラグ付けされ、アプリケーションが数式と間違われる可能性のある特定の特殊文字を正しく処理しなかったために発生しました。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。</p>
SD-47676	<p>[デバイス] メニューで、デバイスのプロパティにユーザー ID が表示されない</p> <p>v9.1 では、SES Web にログインする ID に、[デバイスの参照]、[ユーザー情報の表示] などの権限を持っていても、デバイスのプロパティで、ユーザーID が表示されない。 ルート管理者でログインした場合、問題は発生しません。 (旧 v8.6SR1 では問題ありませんでした。)</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。</p>

SecureDoc Enterprise for Windows

リファレンス	説明
SD-46949	<p>WMI プロセスの CPU 使用率が高い</p> <p>BitLocker で暗号化されているデバイスにおいて、SDService.exe プロセスが原因で WMI アクティビティが CPU の 30%を使用しているケースがありました。これは、WMI クエリがすぐに閉じられたか、再試行せずにタイムアウトした場合に発生しました。関連する問題として、ResultCode 0x80041032 の WMI アクティビティについて、マイクロソフトの KB 3124914 に情報がありません。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。</p>
SD-47285	<p>v9.1 で、セルフヘルプの質問が表示されない</p> <p>セルフヘルプの機能を使うと、ユーザーに質問に回答するためのプロンプトが表示されますが、質問は表示されずに「2 ~ 0 の質問に回答してください」と表示される。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。 注 セルフヘルプは日本語環境に対応していません。</p>
SD-47363	<p>イーサネットケーブルまたはディスプレイケーブルが接続されていると、プリブート認証で BLE が機能しない</p> <p>イーサネット ケーブルまたはディスプレイ ケーブルが接続されていると BLE 機能が損なわれ、接続を確立するために複数回の試行が必要とされる。この問題を解決するために、接続タイムアウトをカスタマイズできるようにシステムを更新しました。</p>
SD-47464	<p>通信なしアラートに関する問題</p> <p>No Communication 期間を 1 日に設定し、24 時間を超えて約 29 時間オフになっていたデバイスでアラートが表示されず、起動できる問題がありました。これは、Windows が内部時計を調整するためで、最大 24 時間変更される可能性があり、この時間変更に対応する必要がありました。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。 システムを更新して Windows の時間調整に合わせ、24 時間の時間変更を許可し、誤ったアラートをすることなく利用できるようにしました。</p>
SD-47466	<p>ドイツ語とスロベニア語の QWERTZ キーボードレイアウト</p> <p>CapsLock または Shift+Lock を使用すると、Z キーと Y キーが入れ替わっていました。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。</p>
SD-48135	<p>BLE で、ロック画面を解除できない</p> <p>プリブート認証時、BLE (Bluetooth)でログインできるが、Windows の画面ロック時に BLE で解除しようとする、「ユーザー名またはパスワードが間違っています」と、表示される場合があります。これは、ユーザー名の形式が一致しないためで、ログイン画面では短い名前 (例: E030288) が使用されているが、システムでは電子メールのような名前 (例: E030288@cardcenter.jp) の使用が想定されます。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。</p>

SDFV2

リファレンス	説明
SD-46911	<p>Sonoma 日本語環境でインストールできない</p> <p>macOS Sonoma 日本語環境では、SDFV2 インストーラーで必要なアクセスを許可するメッセージが表示されず、インストールをすることができませんでした。</p> <p>多言語では問題が発生せず、インストール可能で、システム言語を日本語に切り替えて再起動すると、SecureDoc アイコンが表示されない、SDConnex に接続できない、SDCC が起動しない、リカバリ後にパスワード変更画面が表示されない、アンインストールできないなどの問題が発生しました。</p> <p>これは、Sonoma における問題で、Monterey / Venture OS 環境では発生していませんでした。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。</p>

SDLinux

リファレンス	説明
SD-48183	<p>証明書の変更に後、EAP-TLS で認証できない</p> <p>プリブート認証時に、EAP-TLS の認証プロトコルを使用していた環境で、証明書を変更した後、プリブートは WiFi に接続できなくなりました。</p> <p>この問題は、TLS バージョンの不一致 (OpenSSL: 無効な TLS バージョン構成) が原因でした。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。</p> <p>p2p 構成をネットワーク セクションから移動し、TLS 設定を変更することで解決しています。</p>

IdP

リファレンス	説明
SD-46533	<p>更新された API による PUSH 通知配信</p> <p>IdP は、FCM HTTP v1 API を使用するように変更しました。 PUSH 通知を送信するための従来の FCM API は、2023 年 6 月 20 日に廃止され、古い API を引き続き使用すると、PUSH 通知が中断される可能性があります。 この機能強化により、中断のないサービスが保証され、より安全で効率的で信頼性の高い通知配信システムが提供されます。ユーザーは、継続的で信頼性の高い PUSH 通知、改善されたパフォーマンス、強化されたセキュリティの恩恵を受け、システムを最新のベストプラクティスに合わせて維持し、将来の改善に備えることができます。</p>
SD-47766	<p>CSS のための改善</p> <p>ユーザー認証プロセスのセキュリティと柔軟性を高めることを目的として、新たに「user presence」と「mobile lockout」の設定、および「captcha」オプション、ネストされたグループのサポートを追加しました。 IdP グループ プロパティに、帯域外 (OOB) 認証、ユーザー プレゼンスの確認、ログイン試行失敗後のモバイルロックアウト、および不正アクセスを防止するためのモバイルプッシュなどのオプションが含まれます。 これらの機能は、Cloudflare の「Turnstile」サービスと統合できます。 グループ設定で競合が発生した場合は、最も高いセキュリティオプションが優先され、複数のグループに属するユーザーに関連する機能が有効になります。</p>
SD-47783	<p>セッション Cookie を使用した SP への認証</p> <p>セッション Cookie を追加することで、ユーザーのログインエクスペリエンスを強化しています。 SP#1 にログインした後、セッションは 10 分間アクティブのままになります。この時間内にユーザーが SP#2 にログインした場合、ME または OOB で再度認証する必要はありません。 SP#2 で ME 認証が必要な場合は、IDP がそれを要求します。 IdP ポータルが開いている場合、Cookie を更新し続けるため、10 分後に期限切れになることはありません。</p>

MagicEndpoint

リファレンス	説明
SD-47863	<p>ライセンスに関する問題</p> <p>ユーザーは複数のデバイスで ME を使用できます。 ただし、現在のライセンスシステムでは、新しいデバイスに ME を登録するたびに、同じユーザーに対して新しいライセンスが消費されます。 この問題は、SES が別のクライアント上の同じユーザーを新しいユーザーとしてカウントするために発生します。 この問題は、本バージョンで修正されています。 ME ライセンスは、デバイスではなく一意のユーザーがカウントされるようになりました。</p>

改善した問題(特定のデバイスに関連)

リファレンス	説明
SD-47293	<p>Lenovo T14 Gen4</p> <p>プリブート認証時、BLE を使用してログイン後、画面に白い矢印が表示されてフリーズし、Windows の起動に時間かかりました。 これは、BLE メッセージトラフィックの増加により PBA スレッドがスタックし、プレスキャンループが発生するためでした。</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。</p>
SD-47419	<p>Intel ベースのサーバーにインストールできない</p> <p>RAID 構成のサーバーに SecureDoc をインストールすると、インストール時の再起動後に暗号化が開始されない場合があります。 原因として、再起動後にディスク番号が切り替わることがあります。たとえば、C:(Windows) のディスクが Disk0 と Disk1 の間で切り替わり、プライマリ OS ディスクが Disk1 の場合、F:(SystemRecovery) のディスクが Disk0 になることがあります。このような場合、インストールプロセスは、暗号化前に停止します。</p> <p>問題を回避するためには、SecureDoc のインストール中に RAID セットアップに Disk1 (SystemRecovery (F:)) を含めないようにしてください。 RAID 構成としない、あるいは、プライマリ OS とリカバリディスクが互いに干渉しないようにしてください。</p>
SD-47595 SD-44855	<p>802.1x 環境で、ネットワーク認証ができない</p> <p>v9.1 で対応済の Realtek RTL8852BE WiFi 6 アダプターを搭載した HP ProBook 450 G9 で、802.1x 環境においてオートブートサービスを利用できませんでした。 (同環境で、Intel NIC では問題が発生していませんでした。)</p> <p>この問題は、本バージョンで修正されています。 EAP-TLS と PEAP の両方とも機能します。</p>
SD-48306	<p>SafeNet eToken 5110 + FIPS がプリブート認証で利用できない</p> <p>本バージョンで、SafeNet eToken 5110 + FIPS に対応しました。</p>

制限事項

SecureDoc Enterprise for Windows

リファレンス	説明
SD-47310	<p>【Port Control】無効化時間を経過後、再度有効にならない</p> <p>SES から、Port Control を無効にし、再度有効にするまでの時間設定をします。無効にした間に接続した USB デバイスが時間経過後もアクセスでき、Port Control が有効になりません。ただし、新たに接続した USB デバイスにはアクセス不可となり、Port Control は有効です。この問題は、設定によるもので、クライアントで承認済みデバイスリストを自動的に作成し、現在挿入されているデバイスを承認する設定にしていた場合に発生します。時間経過後、Port Control が復元された時に、そのまま接続されたままのデバイスはクライアント側のホワイトリストに登録されるためです。</p> <p>クライアントで承認済みデバイスリストを自動的に作成する設定では、デバイスのホワイトリストはクライアント側で作成されるため、クライアント側のツールで管理する必要があります。このような問題を発生させないためには、SES 側で使用可能とする USB デバイスを設定してください。</p>
SD-47342	<p>【FFE】 OneDrive Business のフォルダー暗号で、一部のファイルは暗号化されません</p>
SD-47362	<p>【FFE】 暗号化された OneDrive フォルダーに重複ファイルが作成される</p> <p>暗号化された OneDrive フォルダーでテキスト ファイルを作成して編集すると、重複ファイルが自動的に生成されます。この予期しない動作により、同じファイルのコピーが複数作成され、混乱を招きます。</p> <p>この問題は、将来のバージョンで修正する予定です。</p>
SD-47889	<p>【ME】 OTP 利用時の問題</p> <p>バックアップ メソッドとして OTP(ワンタイムパスワード)を使用した場合、SDCC にログイン後、ユーザーはパスワードから Phone トークンに変換するように求められます。このプロセス中に、内部ライブラリの相互作用により、一部のユーザーに「Cryptoki が初期化されていません」というメッセージが表示される場合があります。</p> <p>この問題は、将来のバージョンで修正する予定です。</p>
SD-48218	<p>【ME】 動的ロックと BLE ペアリングの問題</p> <p>Windows の「動的ロック」機能を有効にすると、Bluetooth デバイスが離れているときにシステムをロックように設定できます。PC にペアリングした Android フォンで「動的ロック」機能を有効にすると、パスワード認証から BLE による認証に変換できません。</p> <p>この問題は、iPhone では発生しません。 この問題は、将来のバージョンで修正する予定です。</p>

リファレンス	説明
SD-48642	<p>【ME】「サービスはすでに登録されています。 - コード 1242」というメッセージが表示されることがあります</p> <p>QRコードをスキャンして BLE プッシュを設定する場合、事前にクライアントに ME がインストールされていないと動作しません。Windows で、BLE を設定するためのダイアログで、「サービスは既に登録されています。(コード 1242)」というエラーが表示されます。</p> <p>この問題を回避するには、電源を入れ直す前にクライアントに ME をインストールします。これにより、BLE プッシュ通知が正しく動作し、エラーメッセージは表示されなくなります。</p>

サポートが必要なお客様

弊社製品をご購入いただきました販売代理店によって、問い合わせ窓口が異なります。
サポートが必要なお客様は、製品をご購入いただきました販売代理店にて承ります。
既に SecureDoc をご利用いただいております、アップグレードに関するサポートが必要なお客様も、製品をご購入いただきました販売代理店にて承ります。

連絡先

ウィンマジック・ジャパン株式会社

〒105-0022

東京都港区海岸 1-2-3

汐留芝離宮ビルディング 21 階

電話番号: 03-5403-6950

<https://www.winmagic.co.jp/>

<https://winmagic.com/ja/home-jp/> (グローバルサイト)

営業担当者へのお問い合わせ:

sales.jp@winmagic.com

テクニカルサポート:

support.jp@winmagic.com

謝辞

本製品では、Antoon Bosselaers、Hans Dobbertin、Bart Preneel、Eric Young (eay@mincom.oz.au)、そして Rijndael AES アルゴリズムの開発者である Joan Daemen および Vincent Rijmen によって開発された暗号化ソフトウェアが使用されています。

「本製品では、OpenSSL Toolkit での使用を目的として、OpenSSL Project (<http://www.OpenSSL.org/>) によって開発されたソフトウェアが使用されています。」

ウィンマジックは、このプロジェクトの開発者によるソフトウェアの提供に対して、ここに感謝の意を表します。

©Copyright 1997 - 2024 by WinMagic Corp. All rights reserved.

Printed in Canada

カナダおよび米国では、多くの製品、ソフトウェアおよびテクノロジーが輸出規制の対象となっています。

ウィンマジックの製品の場合、お客様ご自身でこれらの規制の詳細を理解して戴く必要があります。

ウィンマジック製品の輸出と再輸出は、カナダ国境サービス庁 (CBSA) と、アメリカ合衆国商務省産業安全保障局 (BIS) のそれぞれが管理する、カナダおよびアメリカ合衆国の法律の規制を受ける場合があります。

より詳しい情報は、ウィンマジックの Web サイトまたは関係省庁の Web サイトで、ご確認下さい。

WinMagic、SecureDoc、SecureDoc Enterprise Server、Compartmental SecureDoc、SecureDoc PDA、SecureDoc Personal Edition、SecureDoc RME、SecureDoc Removable Media Encryption、SecureDoc Media Viewer、SecureDoc Express、SecureDoc for Mac、MySecureDoc、MySecureDoc Personal Edition Plus、MySecureDoc Media、PBConnex、SecureDoc Central Database および SecureDoc Cloud Lite は、米国およびその他の国における WinMagic Corp. の商標です。

本文中のその他の社名、製品名等は、各社の商標、または登録商標です。

© 2024 WinMagic Corp. All rights reserved.

このドキュメントは、情報提供のみを目的としています。

ウィンマジックは、明示的にも暗黙的にも、このドキュメントについて保証を一切しません。

ここに記載されているすべての仕様は、予告なしに変更されることがあります。